

線状降水帯の発生予測が発表されます

気象庁および気象台では、線状の降水帯が発生する可能性が高いとき、おおむね半日前から「線状降水帯」というキーワードを使って注意を呼びかけています。この呼びかけただちに避難行動をとる必要はありませんが、線状降水帯が発生すると大雨による災害の危険性が急激に高まる恐れがあります。普段よりも災害に対する心構えを高め、キキクル（大雨による災害発生の危険度の高まりを地図上で確認できる危険度分布）や水位などの情報・ハザードマップ・避難所・避難経路などを再確認しましょう。

ただし、線状降水帯による大雨の正確な予測は難しく、呼びかけがあったからといって必ずしも線状降水帯が発生する訳ではありませんし、発生の予測がない場合でも線状降水帯が発生することもあります。

大雨による洪水、浸水害、土砂災害の危険度の高まりを地図上で確認できます。

危険度は、5段階の色で表現しています。



キキクル
(危険度分布)

- 土砂キキクル
- 浸水キキクル
- 洪水キキクル

地図上部のマークから、切り替えることができます。

総務課防災危機管理室

☎ 25 1118

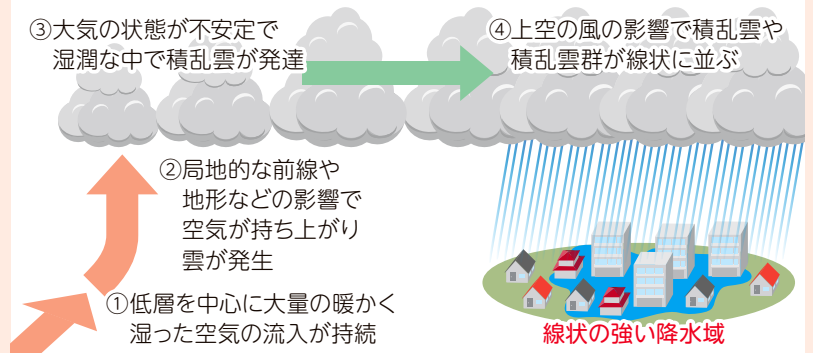
一人一人が備えてこ！
防災力UP！鳥羽

vol.121

線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなし、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をとともなう雨域を線状降水帯といいます。線状降水帯が発生すると、大雨による危険性が高まる恐れがあります。

線状降水帯の代表的な発生メカニズムの模式図



会結成のきっかけは、鳥羽市民文化祭のチラシを見て出展してみたいと思ったことです。さまざまな作品や作家に触れることで、創作することや表現することに対する「共感」やその「輪」が広がればという思いがあります。表現方法は人それぞれです。たとえ同じプラモデルを作ったとしても製作者の個性が作品に表れ、見る側の見か

T&Sファクトリーは、2018年より本格的に活動をスタートさせたグループです。メンバーそれぞれが「作るもの」に特化した活動で、プラモデル・ビーズ・折り紙・木工・イラストなどジャンルの垣根を大きく超えています。世代も10代～60代と幅広く、学生や女性メンバーもおり、さまざまなものづくりを行うメンバー18人を中心に、創作することの楽しさや魅力を広めるために活動しています。

108SMILE
市民活動団体紹介
つながり. 22

「T&S ファクトリー」

108SMILE ホームページ
URL <https://108smile.jimdofree.com/>



市民課人権・市民交流係
☎ 25 1126



たで見えかたも変わり、各自の表現方法やそのパワーに圧倒されます。また、多彩なメンバーやジャンルだからこそそのメリットもあります。自分のイメージを表現するために、ほかのメンバーの経験や手法がいきることがあります。高価な素材や専門機材・プロなみのスキルなどが必要な訳ではなく、それぞれに工夫やアイデアが詰まったメンバー同士だからこそ、互いの情報交換から新たなアイデアやヒントが生まれるのです。メンバーの作品は、図書館での展示会の開催や伊勢のお祭りへの出展、模型店の店内への展示などいろいろななかたに見ていただけるようにしています。表現できる場合は、今後もっと増やしていきたいです。また、創作活動を通じて、さまざまな「輪」をまちづくりにつなげていくために、将来的には教室を開催できたら…と考えています。一般向けに簡単に体験してもらえそうな機会も作りたいです。